

【樹木の部屋】

サンゴジュ (レンプクソウ科ガマズミ属 *Viburnum odoratissimum*)

和名：サンゴジュ (珊瑚樹)

別名：ヤブサンゴ、キサンゴ、アワブキ

英名：rsweet viburnum

マツムシソウ目 常緑広葉高木

原産地：日本、台湾

花言葉：負けず嫌い **花色**：白



← 写真-1 サンゴジュ

撮影日：2020年04月25日

撮影場所：奈良市平城3号公園にて

撮影者：Mさん

▽ 写真-2 サンゴジュの新梢

撮影日：2020年04月25日

撮影場所：奈良市平城3号公園にて

撮影者：Mさん



← 写真-3 サンゴジュの蕾

撮影日：2020年04月25日

撮影場所：奈良市平城3号公園にて

撮影者：Mさん



→ 写真-4 サンゴジュの幹肌

撮影日：2020 年 04 月 25 日

撮影場所：奈良市平城 3 号公園にて

撮影者：M さん



秋に真っ赤に熟す果実が柄まで赤く、この姿をサンゴに見立てたのが名前の由来となったそうです。

葉は長楕円形で、縁に小さくまばらな鋸歯があり、光沢と厚みのある革質で、枝から折り取ると白い綿毛が出ます。若葉は褐緑～褐色ですが、やがて濃緑色へと変化します。刈り込まなければ初夏に円錐花序を出して小型で花冠は 5 裂する白い花を咲かせます。

果実は赤い核果で、観賞価値に富みますが、最終的には黒く熟します。樹皮は灰褐色で皮目が多く、荒い。花期は 6～7 月です。

厚く水分の多い葉や枝は、火をつけても泡をふくばかりで燃えにくいため、火災の延焼防止に役立つともいわれ、防火樹として庭木や生垣によく用いられるようです。また、魚毒植物としても知られており、沖縄県ではかつて毒流し漁に利用されていたそうです。

勢いよく枝が伸びるので、放任すると樹形が乱れて雑然とした無造作な姿になってしまいます。樹形を美しく保つためには年 2 回～3 回程度の刈り込みや剪定が必要です。

長く伸びすぎた枝は短く切り、混みあった場所は枝を付け根から切り落とし(間引き剪定)通風と採光を図ります。また、芽吹きがよいので刈り込んでも問題なく、生垣仕立ての場合は、最初に間引き剪定を行ってから全体を刈り込んで樹形を整えると良い。

剪定・刈り込みの適期は 3 月～4 月と新梢の伸びが一段落した 7～8 月の年 2 回、加えて生垣の場合は姿を整えるために 11 月頃にも伸びた枝を軽く刈り込みます。

サンゴジュハムシは新芽や葉の軸に卵を産み付け、卵はそのまま冬を越して春になると孵って葉や新芽を食害します。日当たりや風通しが悪いと発生しやすいので枝を間引いて通風を良くし、薬剤を散布するなどの事前対策が必要です。陽当たりが悪く風通しが悪いとカイガラムシやすす病が発生することもあります。